



コミコミスクス

明石のコミュニティ・スクール

未来にむけて 学びをかえる

未来を創り 社会を支える 新たな学びと育ちのシステムづくり

KomiKomiSukuSuku

明石市教育委員会事務局学校教育課 mail: gakkyo@city.akashi.lg.jp

For The Future

No. 163

2022

6. 15

「地域とともにある学校づくり推進フォーラム 2022 兵庫」が開催されました



「地域とともにある学校づくり推進フォーラム 2022 兵庫」が6月11日（土）に神戸ポートオアシスで開催されました。主催者挨拶としての末松文部科学大臣の挨拶からは持続可能な社会を担っていく人を育てていくため

には、コミュニティ・スクールは欠かせないという本気度を私は感じました。また、赤池内閣府副大臣の来賓挨拶からは、子ども家庭庁と絡ませながら社会全体で人を育てていく仕組としてのコミュニティ・スクールへの期待度を感じました。フォーラムのメインであるパネルディスカッションには朝霧小学校学校運営協議会がパネリストとして登壇され、「ここが推し！うちのコミュニティ・スクール」で学校教育目標“人とつながる 社会とつながる 未来とつながる学校”を柱に、地域愛を育むのが目的の地域学習ではなく、地域と一緒に、地域を題材に、社会を学ぶ学びを創り、地域全体で市民としての人々が育つ仕組を目指した、朝霧型プロジェクト学習を全国に向け発信されました。地域と一緒に学びを創り、子どもたちの学びを通じて子どもも地域の人も育つ朝霧のコミュニティ・スクールへのアプローチとして受け止められたのではと思います。

そんなフォーラムをオンラインで視聴された市民の方から届いた感想（原文より抜粋）

(1) “Project 型へと舵を切った結果、児童の変容する姿が出てきた” と言われました。朝霧小からイノベーションが起こっていると聞いていましたが、既実践モードに入っていたことに驚きました。〇〇小ではイノベーションすら起こっていません。そこで何が違うのか考えてみました。

(2)教育目標（朝霧小と〇〇小との比較）

- ・(A) 朝霧小：人とつながる 社会とつながる 未来とつながる学校
- ・(B) 〇〇小：“〇〇〇〇〇〇〇〇の育成”

(比較) (A) は「社会に開かれた教育課程」の実現を見据え外に向いていますが、(B) では児童の育成そのものであり内向きになっています。ちなみに今回パネラーで参加した他の2つの学校の目標も同様に外向きです。

- ・丹波南小：子どもが主役の地域に開かれた、地域とともにある学校づくり
- ・岡山寄島幼小中：5歳児～中学3まで保育活動・生活科・総合的な学習を核にした地域に開かれた教育課程「よりしま学」を開発（→実現のために「よりしま学 カリキュラムシート」の作成をしている）。

このようにまず、教育目標を「社会に開かれた教育課程の実現」と定め、これに勇気を持って舵を切らなければ実現が難しいのではないかと思います。



皆さんはこの感想を読まれていかがですか。

私は地域の方が、学校教育目標の持つ意味をここまでとらえていただいていることに正直驚いたのと同時に、ありがたく感じました。こうした議論が学校運営協議会で議論される必要があると改めて感じました。そして、こうした議論を通じて、社会とつながりながら、持続可能な社会を担う人を育てる仕組としてのコミュニティ・スクールが広がっていけばいいと思います。

「地域とともにある学校づくり推進フォーラム 2022 兵庫」アーカイブが7月頃にはYouTube 公開される予定です。公開されしだいお知らせさせていただきます。

今年もホタルが飛びました ホタルをとおしてつながる学び、広がる学び



松が丘小学校の中庭のふれあいの池に放流されたゲンジボタルの幼虫が羽化しました。なかなか羽化せず、今年は…とやきもきしましたが無事に羽化し、3年ぶりにホタルの鑑賞会が開催されました。ホタルプロジェクトも5年となり、3年生の環境体験でのまとめとして2月にホタルの幼虫を“ふれあいの池”に放流しています。



“中庭の池”は昭和50年度（1975年度）の6年生が卒業記念として子どもたちが池のデザインだけでなく、先生たちと一緒に緑いっぱいの中庭を夢みて

掘った池です。そして2010年に当時の3年生が“あかねが丘学園”のビオトープで自然観察会をおこなったことがきっかけとなり、“あかねが丘学園景観29回生”の手で“中庭の池”がビオトープとして生まれ変わり“ふれあいの池”と命名されました。それ以来“あかねが丘学園景観29回生”のメンバーで結成された“いきものみまもり隊”の手で月1回池の清掃が続けられています。そのおかげで池の環境は保たれ、ホタルの幼虫の餌となるカワニナも生息し、「ホタルの幼虫を放流したらひよっとしたらホタルが飛ぶかも」とアドバイスがきっかけとしてスタートしたプロジェクトです。昨年からは3年生が環境体験のまとめとしてホタルを放流するだけでなく、2年生が自分たちが3年生で放流するホタルの幼虫の購入資金を貯めるために考えたのが、生活科で栽培した野菜を販売し売り上げをホタル銀行に貯めていくという“松小マルシェ”という活動をスタートさせました。さらに今年は、子どもたちの野菜の栽培の動機づけとしてホタルのことは知ろうとホタルについて調べ始めています。そして、ホタルの鑑賞会で本物のホタルを見た図工の先生が、まず中庭に飛ぶホタルに感動し、ホタル鑑賞会に来ていた2年生の子どもたちの顔を見て、図工の時間にホタルの絵を描くことに急遽取り組むなど、日常の中で柔軟なカリキュラムマネジメントが回り始めています。こうしたことを見ていると、改めて子どもの学びはつながって物語になっていくんだなと感じました。こうしたバトンがこれから受け継がれながら、保護者や地域の皆さんと一緒に地域のカリキュラムとなっていけばいいなと思っています。緑いっぱいの中庭を夢みてこの池を掘った50年前の子どもたちの夢がつながり、ホタル舞う松が丘へと夢が広がってきました。ホタルを通して子どもたちの学びがどのようにつながり、広がるか楽しみです。



（文責：北本）

松が丘 2022 年ホタル動画ページ

http://scwww.edi.akashi.hyogo.jp/~el_mtgk/img/media6.mp4

